

『令和2年度 香川大学ビジネススクール 地域の中小企業と経済活性化』
講義概要と講師略歴

	日程	講師		講義題
第1回	令和2年10月6日(火)	公益財団法人かがわ産業支援財団	理事長 大津 佳裕	『地域活性化の政策と実践』
第2回	令和2年10月13日(火)	せとちうラボラトリー	代表 石野 雅俊	『地域でできる「私だけの」仕事 ～新しい働き方と地域とのかかわりについての可能性～』
第3回	令和2年10月20日(火)	株式会社空撮技研	代表取締役 合田 豊	『夢を形に大空に。新たなビジネスモデルの可能性』
第4回	令和2年10月27日(火)	株式会社禾	代表取締役 中條 淳子	『「わけこでできる喜びを」の想いから、共生できる社会を目指して』
第5回	令和2年11月10日(火)	東洋オーブ株式会社	代表取締役 南 安子	『創業65周年、老舗の内製型リブランディング』
第6回	令和2年11月17日(火)	一般社団法人希少糖普及協会	代表理事会長 早川 茂	『希少糖の産学官連携事業から商業展開への道のり』
第7回	令和2年11月24日(火)	株式会社トクシンテクノ	代表取締役 小林 有二	『ベトナムとの懸け橋となって見えた日本の人材事情について～「徳」ある人材形成をめざして～』
第8回	令和2年12月1日(火)	香川トヨベツ株式会社グループ	元代表取締役社長 瀧波 博司	『これから日本で起こる M&A』
第9回	令和2年12月8日(火)	中野産業株式会社	代表取締役社長 中野 宏一	『豊かな時代に、食べることが出来ない方々の声より生まれた食品の開発～日本初、第4の穀物 ホワイトソルガムへの挑戦～』
第10回	令和2年12月15日(火)	株式会社マヤプロ	代表取締役社長 宮崎 佳昭	『印刷業界を取り巻く社会環境の変化、印刷業の現状と業態変革。なぜ今 CSRが必要なのか?』
第11回	令和2年12月22日(火)	株式会社村上製作所	代表取締役社長 村上 幸平	『経営計画書は魔法の書』～経営計画書から始まった経営改善～』
第12回	令和3年1月12日(火)	株式会社二宮石材	代表取締役 二宮 力	『「日本の銘石 庵治石を世界へ」～その展望と取り組みについて～』
第13回	令和3年1月19日(火)	メロディー・インターナショナル株式会社	CEO 尾形 優子	『最新のIoT 医療機器のオンライン診療ビジネスに向けた取組み』
第14回	令和3年1月26日(火)	ルポア株式会社	代表取締役 林 周二	『「売れ込まないかコンセプト」～ブランディング手法とその考え方～』
第15回	令和3年2月2日(火)	株式会社オーキッド	取締役 廣瀬 隆行	『お客様に必要とされるものづくりを』

※受講申込書等詳細は最終ページに記載しています。

●【第1回講義(令和2年10月6日)のご案内】

講師：公益財団法人かがわ産業支援財団
 理事長 大津 佳裕 (おおつ よしひろ)



略歴：昭和54年 香川県採用
 平成22年 香川県病院局長
 平成24年 香川県商工労働部長
 平成25年 香川県健康福祉部長
 平成27年 香川県総務部長
 平成28年 かがわ産業支援財団理事長

<講義概要：『地域活性化の政策と実践』>

県内企業の総合的な支援機関として、新産業の創出や地域企業の経営基盤の強化、産業技術の高度化、科学技術の振興などに取り組む、(公財)かがわ産業支援財団の活動概要と香川県の産業の特色等について講義します。

●【第2回講義(令和2年10月13日)のご案内】

講師: せとうちラボラトリー

代表 石野 雅俊(いしの まさとし)



略歴: 平成3年	高松市出身
平成22年	香川県立高松商業高等学校 卒業
平成26年	慶應義塾大学 卒業
平成26年	株式会社みずほ銀行 入社
平成27年	エムスリーキャリア株式会社 薬剤師キャリア事業部 入社
平成29年	せとうちラボラトリー(個人事業) 開業

講師は、東京の人材紹介会社と、香川での個人事業の、二足の草鞋にて活動というユニークな働き方を実践しており、サラリーマンとして在宅ワークをこなしながら、県内においては、個人事業主として、和三盆を取り扱った事業を展開している、今、非常に注目を集めているリモートワークや、ダブルワークの草分け的な存在でもある。

個人事業主として取り組まれている事業内容は、瀬戸内産サトウキビに着目し、その持続と発展を目指す事業を展開している。和三盆の干菓子ブランド「HIYORI WASANBON」を共同経営にて運営、愛媛県「ロハス企業組合」の監査役として経営指導をしながら、サトウキビの栽培、製糖などの実務面までを自ら実践し、商品開発を進めている。

ユニークなワークスタイルで、生まれ育った地域の特産品にスポットをあてた取り組みをおこなっている。

<講義概要:『地域でできる「私だけの」仕事 ~新しい働き方と地域とのかかわりについての可能性~』>

サラリーマンとしてのリモートワーク、いっぽうでの個人事業展開とのダブルワーク。新しい価値観をともなった働き方のスタイルを実践している講師より、あらたな生活スタイルの選択肢を提示するダブルワークのメリット・デメリット、外部からみた地域の魅力発見、地域特産品事業を起こしたことで拓がった視点など、ユニークな働き方を通じて見えた新しい働き方のスタイル、ビジネスについて講義いたします。

●【第3回講義(令和2年10月20日)のご案内】

講師：株式会社空撮技研
代表取締役 合田 豊(ごうだ ゆたか)

略歴：昭和38年	観音寺市出身
昭和57年	三豊工業高等学校 卒業
同 年	日本電信電話公社 入社
平成26年	NTT西日本 退職
同 年	株式会社空撮技研 設立



講師は、長年培ってきた空撮技術をもとに、ラジコンヘリコプターで撮影した写真で第 72 回香川県美術展覧会知事賞を受賞、長年勤め上げた会社を50代で早期退職し、無線操縦機を活用した空撮事業を立ち上げている。

空撮技術による水難救助システムを開発するなど、(公財)かがわ産業支援財団主催の「かがわビジネスモデル・チャレンジコンペ 2014」においても、優秀賞となった実績をもつ。

上空から撮影した情報を活用した新たなビジネスモデルの確立、ドローンそのものを活用した物資運搬や山地などにおける電線用パイロットロープの運搬・架設などへの利活用もすすめており、ドローン技術を駆使した新たな可能性を開拓し続けている。

また、ドローンの安全運用を啓発、教育する目的で、「香川県ドローン安全協議会」を設立しており、操縦訓練講習など、操縦者育成にも力を注いでいる。

<講義概要：『夢を形に大空に。新たなビジネスモデルの可能性』>

元々、空撮に興味があり、プライベートはもちろん、業務のなかでも空撮技術を活用してきた講師。

講義ではドローンで実際儲かっている人、操縦技術の課題、フライトコントローラーの課題を中心にドローン利活用の現状、経営に関してはユーザの満足度を高める方法、開発会社としての今後の方針について講義します。

●【第4回講義(令和2年10月27日)のご案内】

講師：株式会社 禾
代表取締役 中條 淳子(ちゅうじょう じゅんこ)

略歴：昭和45年 高松市出身
平成20年 リマ・クッキングスクール師範科 修了
平成22年 株式会社 禾 設立
平成26年 (公財)かがわ産業支援財団
「かがわビジネスモデル・チャレンジコンペ 2014」最優秀賞を受賞



講師は、貿易商社、総合商社勤務を経て、現在は、香川県産の米粉を100%使用したグルテンフリーで、3大食物アレルギー不使用の焼き菓子の製造販売を行う株式会社禾(のぎ)を設立。

商社時代に体調不良を経験し、マクロビオティックと出会った体験から、その後、県内において健康を意識した食べ物を提供するカフェを経営。

東日本大震災を契機に、誰もが安心して食べられる素材をもちいた菓子の必要性を痛感し、アレルギー対応の菓子製造に専念する事を決意。その際、工房内三大食物アレルギーの排除やコンタミ防止を徹底等、カフェを閉じて製造への特化をおこなっている。

同社は、化学調味料・保存料・着色料を使わずに、植物性原料使用にこだわった商品を志向しており、化学添加物を使わない制約のもとで、「美味」、「食感」を追求するその菓子作りが評価され、現在、全国の量販店や雑貨店でもひろく取り扱われる商品となっている。

また、「三大アレルギー不使用の長期保存可能な備蓄用食品の商品化」というビジネスモデルが、(公財)かがわ産業支援財団の、「かがわビジネスモデル・チャレンジコンペ 2014」にて、「最優秀賞」となるなど、ビジネスモデルに対しての高い評価も受けている。

<講義概要:『「わけっこできる喜びを」の想いから、共生できる社会を目指して』>

「この子はアレルギーがあるから、こんなものしか食べられない」

これは食物アレルギーなどを持つ子供達が周りの大人たちからよく言われる言葉。

禾のテーマである「わけっこできる喜びを」は、アレルギーの有無を越えてみんなで同じものを食べて美味しいと笑いあえる。またそれだけではなく、違いを越えて繋がれるそんな共生の社会を目指しています。

通常クッキーなどの焼き菓子は、小麦粉・卵・バターや精白したお砂糖などをたっぷり使用しますが、私共のお菓子は日本のお米と植物性の原料だけを使った、植物性のお菓子です。こういったビーガン(菜食主義)のものは10年前にはごく一部の趣味的な扱いの物でしたが、それが食物アレルギーの方々には合致するものだと気づき、そこから現在の菓子製造業へと形を変えてきました。

小さな台所から始まった趣味の活動が、会社として製造工場を持ち、今まで事業継続を続けてくることが出来た、その背景や目指したことなどその経緯についてお話いたします。

●【第5回講義(令和2年 11月10日)のご案内】

講師：東洋オリーブ株式会社
代表取締役 南 安子(みなみ やすこ)



略歴：昭和40年 大阪府出身
昭和59年 同志社女子高等学校 卒業
昭和63年 慶應義塾大学文学部 卒業
平成21年 株式会社ダイゾー常勤監査役
平成27年 東洋オリーブ株式会社代表取締役 就任

東洋オリーブ株式会社は、国産オリーブの実質栽培面積、収穫量、流通量で日本一を誇る企業であり、講師の曾祖父である実業家・南俊二氏が地域のものづくり継承の思想をもとに昭和30年に創業し、現在に至っている。国内では最大級のオリーブ自社農園を有し、オリーブの栽培、オリーブオイルの生産・販売、化粧品等の製造販売も手掛けている。講師は、平成27年に代表取締役に就任し、顧客視点によって、同社の広報やブランディング戦略を一新。同社の丁寧な「ものづくり」の側面をコンテキスト化し、製品の効能だけでなく、その歴史や、製品に関わるあらゆる人々の英知の結集としての時間をブランドとして刻めるように、その発信方法を日夜問い続けている。オリーブの搾りかすを有効活用させる取り組みや、オリーブ枝からつくった有機肥料の製造など、環境負荷軽減のアクションをおこなうほか、「小豆島オリーブ協会」の会長や、「県オリーブ生産者ネットワーク」の会長にも就任するなど、地域全体におけるオリーブ事業の活性にも取り組んでいる。

<講義概要：『創業 65 周年、老舗の内製型リブランディング』>

生前、東洋オリーブの創業者南俊二は、「オリーブオイルは、日本人の繊細な味覚にマッチする。

いつの日か、日本でも、オリーブオイルが、なくてはならない調味料となるだろう。その時には、小豆島にとって、オリーブが大きな観光のリソースとなるに違いない」「それは、ひ孫の代の頃ではないか。ひ孫が事業を継承する頃まで、どんなことがあっても、この事業を継続しなければならない」という言葉を遺していました。

2015年、9代目社長として就任した南安子は、正にそのひ孫にあたります。南俊二の予言した通り、その健康効果に注目が集まり、急速に拡大した日本のオリーブ市場ですが、オリーブオイルの正確な知識、情報は、一般顧客には、まだまだ浸透しているとは言えません。

東洋オリーブでは、オリーブの情報、商品の魅力、商品にまつわるストーリーを多角的な視点から発信することによって、差別化を図り、自社のブランディングのみならず、国産オリーブ自体の認知度向上に向けて努力を重ねています。

また、コスト削減、スキルの社内での保有、蓄積という一石二鳥の内製型ブランディングについてもお話しさせていただきます。

●【第6回講義(令和2年11月17日)のご案内】

講師：一般社団法人希少糖普及協会
代表理事会長 早川 茂(はやかわ しげる)



略歴：昭和 52 年 名古屋大学農学研究科博士課程修了
昭和 54 年 名古屋大学農学部助手
平成 3 年 香川大学農学部教授
平成 21 年 香川大学農学部長
平成 25 年 香川大学理事・副学長
平成 27 年 香川大学名誉教授
平成 27 年 香川大学特命教授
令和 2 年 一般社団法人希少糖普及協会代表理事会長

希少糖を用いた食品開発研究に取り組み、産学官連携都市エリア事業において民間企業における希少糖の活用を推進した。また、国際希少糖学会の事務局長として希少糖の世界への発信や希少糖研究者の育成に努めた。現在は(一社)希少糖普及協会の代表理事会長として希少糖の普及啓発活動を行っている。

<講義概要:『希少糖の産学官連携事業から商業展開への道のり』>

自然界に微量しかない単糖である希少糖を生産する酵素を土壌中の微生物から単離し、希少糖の大量生産に向けた産学官連携事業が香川大学を中心にして 20 数年前に香川県で立ち上がった。

研究開発と事業化は困難の連続であったが、「知的クラスター」や「都市エリア事業」など、いくつかの産学官連携事業を通して、プシコース(アルロース)の大量生産が可能となり、食品加工素材として民間企業での活用が始められた。また、希少糖の研究開発や広報活動の流れの中で、希少糖含有シロップが新たに開発され、国内食品企業での利用(商品開発)が一定程度広がってきた。国際希少糖学会を設立し、2~3 年ごとに香川県において国際シンポジウムを開催し、希少糖研究者の育成ならびに香川県民や企業への紹介活動を通して希少糖の広報活動を行ってきた。このように産学官連携事業により、プシコース(アルロース)の商品利用価値の科学的根拠を明らかにするとともに、プシコースを含む希少糖含有シロップを利用した商品開発がなされてきている。こうした産学官連携としての希少糖の事業化について、商業展開を中心として講義を進めます。

●【第7回講義(令和2年11月24日)のご案内】

講師：株式会社トクシンテクノ
代表取締役 小林 有二(こばやし ゆうじ)



略歴：昭和43年	善通寺市出身
平成元年	小林鉄工所 入社
平成21年	株式会社トクシンテクノ 設立
平成26年	株式会社トクシントラスト 設立
平成27年	株式会社トクシンスチール 設立
平成28年	株式会社トクシンベトナム 設立
平成29年	トクシンネット協同組合 設立

同社は、鉄製の階段を専門に製作する企業であり、今では、日本企業とベトナム大卒生をつなげる人材紹介事業もおこなって、多角的な事業展開をおこなうグループ形成を進めている。

講師は、家業の鉄工所から独立し、地道な努力の末に、現在の規模にまで事業を安定させてきた。

平成25年からは、ベトナム人実習生の受入れを開始し、現在、グループの主要な従業員は、ベトナム人で多くを占めるほどとなっている。現在までに、5つのグループ企業を立ち上げ、急速に規模を拡大させ、ベトナム人の実習生を各企業へ紹介あっせんする会社も作り、日本の中小企業における労働力事情にも精通している。

<講義概要:>

『ベトナムとの懸け橋となって見えた日本の人材事情について～「徳」ある人材形成をめざして～』>

香川とベトナムで展開する鉄工会社グループを率い、来日を望むベトナム人の受け入れを支援する法人も立ち上げた講師。企業への採用が決まった学生には、渡航費用はもとより、日本語教育などの教育費用についても、入社先企業負担とする仕組みを構築するなど、学生に金銭的な負担をかけないモデルづくりを採用している。

同社の名前には、「徳」の字が込められており、その意は一般的には、「身についた品性。社会的に価値のある性質。善や正義にしたがう人格的能力」、「広く他に影響を及ぼす望ましい態度」とあり、同社の基本理念、「社会の役に立つことでなければならない」という思想にも通じている。そんな思想のもと、事業を牽引している講師。仕事力だけでなく、人間力の向上を目指す、バランスのとれた人材教育に注力している。

講義では、起業におけるさまざまな経験談や、日本の人材市場の事情、これから求められる人材とその人材涵養の考え方などについてお話しいたします。

●【第8回講義(令和2年12月1日)のご案内】

講師：香川トヨペット株式会社グループ
元 代表取締役社長
灘波 博司(なんば ひろし)



略歴：昭和58年	香川大学経済学部 卒業
同 年	東京海上火災保険株式会社 入社
昭和63年	香川トヨペット株式会社 入社
平成10年	同社 代表取締役社長 就任
平成13年	香川大学大学院地域マネジメント研究科 卒業
平成31年	香川トヨペットと香川トヨタ自動車を経営融合
同 年	香川トヨペット株式会社 代表取締役会長 就任
令和元年11月7日	香川トヨペット株式会社 退任

香川トヨペット株式会社の前代表取締役社長として、21年間、経営の舵取りを担い、人材育成など組織づくりから、経営融合などの重要局面を乗り切ってきた講師。

これまで、サンポート高松トライアスロンの元実行委員長やスペシャルオリンピックス日本・香川(知的障害者のボランティア活動)事務局長、さぬき動物霊園園長、高松国際ピアノコンクール元統括委員、茶楽会長といった顔も持ち、スポーツ・文化芸術の振興、地域活性化の活動を行っている。

トライアスロンは趣味でもあり、25年間完走を果たすなどアスリートとしての面も持っている。ピアノ歴24年。お抹茶歴18年。

また、香川大学大学院地域マネジメント研究科の第1期生でもある。

<講義概要:『これから日本で起こる M&A』>

香川トヨペット株式会社の代表取締役社長時代には、「よく働き、よく学び、よく遊ぶ」ことをモットーとした、人材教育に力を入れ、人材教育の重要性を意識した組織づくりを実践。

これから日本で起こる人口減、少子高齢化に対応するために「会社融合」を決断し、実行したことをスポーツ・文化芸術の振興、地域活性化の活動の話を変え講義します。

●【第9回講義(令和2年12月8日)のご案内】

講師：中野産業株式会社

代表取締役社長 中野 宏一(なかの こういち)

専務取締役 中野 恵子(なかの けいこ)



中野 宏一氏 略歴：

昭和29年	観音寺市出身
昭和52年	甲南大学経営学部 卒業
昭和53年	スイス国製粉機械メーカー ビューラー社にて 製粉技術を学ぶ
昭和54年	中野産業株式会社 入社
平成6年	同社 代表取締役社長 就任

明治10年創業以来、米穀卸売や製粉事業に携わり、現在食品製造業、倉庫事業を軸とする中野産業株式会社5代目社長である講師は、日本において初めてホワイトソルガム(白たかきび)を新しい食材として、国内に持ち込み、市場に流通させたパイオニアでもある。

焼酎や、ビール、製パン、スナック菓子用途、食感改良材用途、焼き菓子用途等々への試行錯誤を重ねながら、最終的には小麦の代用となるまでに用途を展開、平成13年には、粉碎ラインを併設したホワイトソルガム専用の工場を作り、粒や粉、グリッツ(顆粒)の製造を始めている。

パートナーであり、専務取締役でもある恵子氏のサポートのもと、小麦、乳、卵など食物アレルギーをもつ困っている人々への代用アイテムとしてホワイトソルガムを使った商品開発をおこない、食物アレルギーに対応した需要に応えながら、今では全国の「生協」大手ベビー用品チェーンに商品を納めるようになっている。

2018年3月に幕張メッセにて行われたFOODEX 2018にて「FOODEX 2018 美食女子グランプリスイーツ部門金賞」を受賞した「パック de 蒸しパン(プレーン)」を皮切りに食事パンタイプ、ココア味、抹茶味とシリーズ化を行い、時短調理で簡単に出来るグルテンフリー&アレルギーフリー食品ということでマスコミ等にも取り上げられている。

<講義概要:『豊かな時代に、食べることが出来ない方々の声より生まれた食品の開発

～日本初、第4の穀物 ホワイトソルガムへの挑戦～』>

海外で出会った、当時、「第4の穀物」と呼ばれた「ホワイトソルガム」の可能性に魅せられた講師。

先代の急逝から、急遽、米穀卸売や製粉事業と倉庫事業を継承し、「ホワイトソルガム」との出会いから、新しい穀物を活用した新ビジネスの展開を指向。そこから、試行錯誤、さまざまな苦難を経て、公私にわたるパートナー恵子氏とともに、丁寧な市場調査、顧客要望の収集を実践。そのなかから、食物アレルギーで小麦等を摂取できない人々のニーズにたどり着く。新たな可能性の発掘精神から、新たなビジネス展開を生み出す、その挑戦と、試行錯誤から得た経験やビジネスヒントについて講義します。

●【第 10 回講義(令和2年12月15日)のご案内】

講師：株式会社ミヤプロ

代表取締役社長 宮崎 佳昭(みやざき よしあき)



略歴：昭和38年	香川県高松市生まれ
昭和60年	東京工芸大学工学部画像工学科 卒業
昭和60年	小西六写真工業(現コニカミノルタ)入社
平成2年	株式会社ミヤプロ入社
平成18年	同社代表取締役就任
平成29年	香川マルチメディアビジネスフォーラム会長就任
令和2年	香川県印刷工業組合理事長就任
令和2年	香川県中小企業団体中央会理事就任

同社は、昭和 51 年にオフセット印刷の写真製版会社として設立され、現在もパッケージを中心に最新の UV 製版などを行っている。これまでは、「感性価値創造企業」をテーマに掲げ、従来の印刷物だけにとらわれないことなく、顧客満足度の高い製品・サービスの提供を目指し、企画、印刷、IoT、イベント、マーケティングなどの様々な分野で「ものづくり」「コトづくり」に取り組んできた。

印刷業界においては全日本印刷工業組合連合会が掲げる CSR 認定制度の立ち上げに関与し、2013 年より単一業界では全国初の CSR 認定制度を開始すると同時に CSR2 スターを取得。現在は国連が掲げる SDGs にも連動させ第 1 回かがわ SDGs アワードにおいて審査員特別賞を受賞。そこからさらに、来るべき環境変化の時代にあわせ、テーマを新たに、「Challenge for the Future」とし、「温故知新」、「チャレンジ精神」をモットーに、新しい「ものづくり」、「コトづくり」を目標として活動している。

また、企業の社会的責任について深く意識した契機から、環境省主導の「エコアクション21」認定を香川県の印刷業界でいち早く取得している。

また、同社は(一社)マーケティング委員会に参画。香川県を代表して、「さぬきマーケティング委員会」を担当しており、社会・地域貢献事業として、香川の風景を切り取った風景画を通じた地域おこしや、展示会、名刺やハガキ、一筆箋などのビジネスツール用途提供などをおこなうシビックプライドの醸成、地域の魅力再発見の発信事業なども手掛けている。

<講義概要:>

『印刷業界を取り巻く社会環境の変化。印刷業の現状と業態変革。なぜ今 CSR が必要なのか?』>

講師は早い時期から、CSR(企業の社会的責任)について強く意識し、その認定のためにさまざまな職場環境改善に取り組み、その基準としての「コンプライアンス」、「環境」、「情報セキュリティ」、「品質」、「雇用・労働安全」、「財務・業績」、「社会貢献・地域志向」、「情報開示・コミュニケーション」8項目について大きな見直しを実行。

そこから、それまで見えてこなかったさまざまな発見、得られた社会的な信用の重要性など、企業が活動をおこなう上での地域社会のなかでの使命や役割について、講師が実感したこと、考えたこと、同社を取り巻く経営環境などについて講義します。

●【第 11 回講義(令和2年12月22日)のご案内】

講師：株式会社村上製作所

代表取締役社長 村上 幸平(むらかみ こうへい)



略歴：昭和54年	高松市出身
平成9年	高松中央高等学校 卒業
平成11年	四国総合ビジネス専門学校 卒業
平成15年	塗装・板金加工会社などを経て、(株)村上製作所に入社
平成21年	同社 代表取締役社長 就任

同社は、油圧機器部品や水門施設などの製造を手掛けており、省力用の産業機器も扱っている製作所。水処理技術を活かして、ろ過浄水ユニット・シャワーの機能をもつ被災者支援用コンテナを開発するなど、復旧支援関連分野への展開も積極的におこなっている。

講師は、県内の塗装・板金加工会社などを経験し、24歳で同社に入社。工場、営業、部品調達部門を経験し、30歳で急逝した父親の跡を受けて代表取締役社長に就任。

経営のことについて暗中模索していた中、経営塾に参加したことが契機となり、「経営計画書」の重要性を痛感。以後、経営方針や明確な目標設定、職場環境改善などに、全社一丸となって取り組んでいる。

<講義概要：『「経営計画書は魔法の書」～経営計画書から始まった経営改善～』>

急逝した父親である前社長の意志を継ぎ、弱冠30歳にして代表に就任した講師。経営について悩み苦しんだ中から、「経営計画書」の重要性について痛感。

そこから、全社員を巻き込んだ職場環境改善への取り組みや、経営方針、明確な目標設定の策定にこれまで以上に注力。

作業者負担や、コスト削減を図るために、伝統的な職人技術を継承しながら、自動化できる部分にロボットを活用するなど、伝統技術の継承と新しい技術導入にも積極的に取り組んできた。

職人技を適宜に自動化し、職場環境を従業者にやさしいものにしていくノウハウをまずは社内でも実現し、そのパッケージをまた社外販売にも活かしていくような展開も図っている。そんな、取り組みも含めた会社経営、同社を取り巻く経営環境、ものづくりにかける考え、想いなどについて講義します。

●【第12回講義(令和3年1月12日)のご案内】

講師：株式会社二宮石材
代表取締役 二宮 力(にのみや ちから)



略歴：昭和43年 香川県高松市生まれ
平成2年 有限会社 和幸石材入社
平成5年 有限会社 和幸石材退職
平成5年 二宮石材 創業
平成19年 株式会社 二宮石材創立
令和3年(予定) AJI PROJECT 代表就任予定

採石業を父親が営んでいたことから、石職人を目指し始めた講師。三年間の石工としての修行を終え、平成5年に文字彫専門業者として二宮石材を創業。サンドブラスト加工という研磨手法を使って、花崗岩のダイヤモンドといわれる庵治石の表現加工に挑戦し、技術を高めながら今日まで多くの弟子職人も輩出している。

最近では、独自が開発した新しい技法で、香川県とポケットモンスター「ヤドン」のコラボレーション企画アイテムも手掛け、庵治石にヤドンを彫ったコースターやペーパーウェイトなども打ち出しており、さらに、アパレルの BEAMS JAPAN や人気アニメなどとコラボしたアイテムや、高松市 PR バッジも手掛けるなど多彩な販売展開も行っている。

また、高松市牟礼庵治商工会の産地再興を図る「AJI PROJECT」の取り組みに複数企業の一社として参画。8年間の展開を経て、独自の技術による商品開発や人脈を活かし、参画企業、産地の代表として、「AJI PROJECT」を企業化へと導き、産地にはない新たな新事業企業を立ち上げ、産地の再興と日本を代表する産地産業の構築を目指している。

今後、自社事業の展開と、「AJI PROJECT」の企業化展開を、職人でありながら、また、経営者としてもありながら、挑戦をし続けている。

<講義概要：『「日本の銘石 庵治石を世界へ」～その展望と取り組みについて～』>

「花崗岩のダイヤモンド」といわれる庵治石。「庵治石を世界へ、庵治産地を世界へ」をモットーに、日夜、庵治石の可能性を模索し、さまざまな加工や新機軸探求に心血を注ぐ講師。

庵治石の魅力と職人の技術を多くの人に知ってほしいという思いから、さまざまな異業種とのコラボレーションを図り、石材を駆使した新たな展開を切り拓き続ける講師が、庵治石原産地の石材ビジネスの現状や、今後の展望・課題、地域活性の取り組み、今後のモノづくりの方向性などについて講義します。

●【第13回講義(令和3年1月19日)のご案内】

講師：メロディ・インターナショナル株式会社
CEO 尾形 優子(おがた ゆうこ)



略歴：京都大学大学院工学研究科原子核物理学専攻
2002年 周産期産科電子カルテ(株)ミトラを起業。
2009年 「Japan Venture Awards 2009」
起業家部門中小企業長官表彰。
2015年 「メロディ・インターナショナル株式会社」設立。
2019年 「ものづくり日本大賞」経済産業大臣賞受賞。

講師は、京都大学大学院の原子核物理学修士課程を専攻後、香川に移住、(株)アムロン、(株)イノベイトなど県内企業に勤めているときに「四国4県電子カルテネットワーク(経産省⇒厚労省)」に参画。その際に医療診断システムに興味を持ち、平成14年に周産期産科電子カルテ開発販売をおこなう目的で(株)ミトラを起業している。その後、香川県K-MIX(かがわ遠隔医療ネットワーク)事業や、岩手県周産期医療情報ネットワーク「いーはとーぶ」事業(厚生労働省)参画。周産期医療の抱える課題を解決するために、IoT 胎児心拍計を使った遠隔医療プラットフォームを構築します。

「救える命を確実にこの世界へ」「世界中のお母さんに安心・安全な出産を」をスローガンに、母子死亡率低減のために開発及びサービス提供を行っている。

<講義概要:『最新のIoT医療機器のオンライン診療ビジネスに向けた取組み』(仮)>

世界一低い母子死亡率を誇る日本の周産期医療。いま、それを支えてきた環境が急激に悪化し、危機に瀕しています。情報化が海外に比べて大幅に遅れている日本の医療現場に、ICT機器を独自に開発し投入することで、周産期医療の危機を乗り越えようと起業しました。さらに日本が培ってきた周産期医療のノウハウを、ICTを活用して世界に拡げることを目指しています。現在病院に設置されている胎児モニターは、唯一胎児の情報を与えてくれるツールです。このモニターをモバイル化し、病院内のみならずいつでもどこでも胎児の状態を計測し、医師が遠隔でモニタリング出来るプラットフォームとセンサーを開発・サービス提供しています。

周産期の死亡率を減らすために、独自の「Melody i(メロディーアイ)」遠隔診療プラットフォームシステムを構築し、医療の質向上と負担軽減を目指しています。この遠隔医療システムで、一つでも多くの新しい命を育てて行きたいという想いから、遠隔医療専門の会社として設立されたメロディー・インターナショナル株式会社。講義では、同社設立に関する経緯や事業内容、その経営スキーム、同社を取り巻く環境からみた今後の展望などについてお話いたします。

●【第14回講義(令和3年1月26日)のご案内】

講師：ルボア株式会社

代表取締役 林 周二(はやし しゅうじ)



略歴：昭和54年 三本松高等学校 卒業
昭和58年 大阪外国語大学 ロシア語学科卒業
同 年 鎌田利株式会社(現キャスコ株式会社) 入社
平成元年 林株式会社(現ルボア株式会社) 入社
平成15年 同社代表取締役就任

過去公職：東かがわJC19代理事長

三本松高校PTA会長・香川県高校PTA連合会副会長

現在公職：東かがわ市商工会副会長

日本手袋工業組合副理事長

大中三校会(三本松高校OB会)副会長

長尾間税会副会長

大川法人会常任理事

日本一の手袋産地、東かがわ市において、昭和36年に革手袋の製造業として創業された同社。

その丁寧で細やかな手袋縫製技術を応用して、財布メーカーへと転身。現在、財布などの革小物をメインに企画・製造・販売を行っている。

その後、デザインプロデューサーやデザイナーとの出会いを機縁として、自社ブランド生産を実施。商品コンセプトをしっかりと確立した「ものづくり」をおこなっている。

<講義概要：『「売り込まないがコンセプト」～ブランディング手法とその考え方～』>

販路開拓のコンセプトは売り込みをしないこと。もっぱら展示会を中心とした営業展開活動をおこなう同社は、その優れた縫製技術に裏打ちされた製品力についても、そのデザイン性についても、積極果敢な営業活動をおこなっていない。シンプルで機能的な革製品をプロデュースし続ける同社。

自社ブランド立ち上げまでの経緯、デザインコンセプトや、ブランディング手法、販売戦略、情報発信、同社を取り巻く経営環境などについて講義します。

●【第 15 回講義(令和3年2月2日)のご案内】

講師：株式会社オーキッド

取締役 廣瀬 隆行(ひろせ たかゆき)



略歴：昭和59年 高松市(旧香川郡) 出身
平成28年 株式会社オーキッド 入社
平成29年 取締役に就任

株式会社オーキッドは 1988 年に創業し、当初は下請け構造の中で今治からタオルを仕入、刺繍加工を行っていた。しかし 90 年代以降、製造拠点の海外流出に伴い、それまでの企業向けの大口案件がなくなり、事業存続のため事業転換を余儀なくされる。生き残りのため、他の加工メーカーが受けない小ロット・短納期の案件を中心に法人・個人幅広いお客様の依頼を受けるビジネスモデルに転換。それを機に、お客様に必要とされる会社とは、より付加価値のある加工とは、を模索し今に至る。

当初は高松市香川町で事業を営んでいたが、2013 年に現在の所在地である高松市六条町に本社を移転。現在は、高松市六条町の本社、創業の地である香川町の工場、岡山県の工場と、3拠点において、繊維製品の製造及び二次加工をおこなっている。

自社生産のリストバンドについては国内でもトップクラスのシェアを誇り、オンラインでの受注システムの開発や自社独自の刺繍加工方法“せと刺繍”の確立など他社との差別化を進めてきた。

<講義概要:『お客様に必要とされるものづくりを』>

オーキッドでは刺繍加工を中心に様々な設備への投資を積極的に行ってまいりました。

刺繍加工のみではなく、プリントやレーザー裁断機器、ラインストーンのシート組み上げ機械などの導入を行ってきた背景に、お客様に満足していただきたい、お客様に必要とされる企業でありたいという思いがあります。

小ロット・短納期・多加工に出来るという強みを確立し、他社がやらないこと、できないことを行うという精神で事業を続けてきた同社。そのものづくりに対する考え方や、これまでの取り組み、同社を取り巻く経営環境、今後の展望などについて講義をします。

～(公財)かがわ産業支援財団、香川大学大学院地域マネジメント研究科共同開設～

公開講座 『 地域の中小企業と経済活性化 』

県内企業の総合的支援団体である公益財団法人かがわ産業支援財団は、地域の中小企業と地域活性化に取り組み、地域を担う若手人材を育成することを目的に、企業経営等の第一線で活躍している講師による授業科目を公開講座として開設します。15回の講義では、世界に誇れる技術や様々なマネジメント事例が登場します。「地域に根付いた企業活動とは何か」「企業活動を通じた地域の活性化とは何か」などの答えを導くヒントが多く得られますので、是非、日頃聞くことの出来ない貴重な講師による現場の生きた声に触れてください。

公益財団法人かがわ産業支援財団
理事長 大津 佳裕

	日程	講師	講義概要
第1回	2020/10/6(火)	公益財団法人かがわ産業支援財団 理事長 大津 佳裕	地域活性化の政策と実践
第2回	2020/10/13(火)	せとうちラボラトリー 代表 石野 雅俊	地域でできる「私だけの」仕事 ～新しい働き方と地域とのかかわりについての可能性～
第3回	2020/10/20(火)	株式会社 空撮技研 代表取締役 合田 豊	夢を形に大空に。新たなビジネスモデルの可能性
第4回	2020/10/27(火)	株式会社 禾 代表取締役 中條 淳子	「わけっこできる喜びを」の想いから、共生できる社会を目指して
第5回	2020/11/10(火)	東洋オーリーブ 株式会社 代表取締役 南 安子	創業65周年、老舗の内製型リブランディング
第6回	2020/11/17(火)	一般社団法人希少糖普及協会 代表理事会長 早川 茂	希少糖の産学官連携事業から商業展開への道のり
第7回	2020/11/24(火)	株式会社 トクシンテクノ 代表取締役 小林 有二	ベトナムとの懸け橋となって見えた日本の人材事情について ～「徳」ある人材形成をめざして～
第8回	2020/12/1(火)	香川トヨペット 株式会社グループ 元代表取締役社長 灘波 博司	これから日本で起こるM&A
第9回	2020/12/8(火)	中野産業 株式会社 代表取締役社長 中野 宏一	豊かな時代に、食べることが出来ない方々の声より生まれた食品の開発 ～日本初、第4の穀物 ホホワイトソルガムへの挑戦～
第10回	2020/12/15(火)	株式会社 ミヤプロ 代表取締役社長 宮寄 佳昭	印刷業界を取り巻く社会環境の変化。印刷業の現状と業態変革。なぜ今CSRが必要なのか？
第11回	2020/12/22(火)	株式会社 村上製作所 代表取締役社長 村上 幸平	「経営計画書は魔法の書」～経営計画書から始まった経営改善～
第12回	2021/1/12(火)	株式会社 二宮石材 代表取締役 二宮 力	「日本の銘石 庵治石を世界へ」～その展望と取り組みについて～
第13回	2021/1/19(火)	メロディ・インターナショナル 株式会社 CEO 尾形 優子	最新のIoT医療機器のオンライン診療ビジネスに向けた取り組み
第14回	2021/1/26(火)	ルボア 株式会社 代表取締役 林 周二	「売り込まないがコンセプト」～ブランディング手法とその考え方～
第15回	2021/2/2(火)	株式会社 オーキッド 取締役 廣瀬 隆行	お客様に必要とされるものづくりを

講義時間は、火曜日 18:20～19:50 までの 90分間です。

開講場所：香川大学 幸町南キャンパス 総合教育棟（DRI棟）1階・第11講義室
（開催場所の講義室が変更になる場合があります。）

【問い合わせ先】※平日10:00～18:00（祝祭日、大学の休校日を除く）

香川大学大学院地域マネジメント研究科 〒760-8523香川県高松市幸町2-1

TEL：087-832-1955 FAX：087-832-1988

E-mail：gsm-office@gsm.kagawa-u.ac.jp

受講料無料
お申込みは裏面へ

2020年度「地域の中小企業と経済活性化」受講申込書

ふりがな			ご住所	市・郡	町
お名前			ご住所	市・郡	町
ご所属			ご住所	市・郡	町
連絡先	(TEL) — — (FAX) — —	(携帯電話)			
E-Mail	@				
*参加希望の回に○をつけてください					
	第1回 10/ 6 (火)	第2回 10/13 (火)	第3回 10/20 (火)	第4回 10/27 (火)	第5回 11/10 (火)
	第6回 11/17 (火)	第7回 11/24 (火)	第8回 12/ 1 (火)	第9回 12/ 8 (火)	第10回 12/15 (火)
	第11回 12/22 (火)	第12回 1/12 (火)	第13回 1/19 (火)	第14回 1/26 (火)	第15回 2/ 2 (火)

※ご記入いただきました個人情報につきましては、本講座運営以外の目的に利用することはありません。

■受講料：無料

■申込受付：各参加希望回の前週金曜日17時までにお申し込みください。

■申込方法：(1) (2) いずれかの方法でお申し込みください。

(1) 「受講申込書」にご記入のうえ、FAXでお送りください。

(2) 「地域マネジメント研究科」ホームページからお申し込みください。

URL： <http://www.gsm.kagawa-u.ac.jp/>

[会場] 香川大学 幸町南キャンパス 総合教育棟 (DRI棟) 1階・第11講義室
(講義室が変更になる場合がございます)

※お車でのご来校はご遠慮ください。公共交通機関もしくは近隣の有料駐車場をご利用ください。



【ご参加されます方へ】

- ・本講座は、新型コロナウイルス感染症予防対策を遵守して実施いたします。当日、発熱等の症状がある方はご参加はお控えください。
- ・会場の密集を防ぐため、定員を30名といたします。また、事前申し込みがないと参加できません。
- ・会場へお越しの際は、マスク着用、手指消毒にご協力をお願いします。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会場に入る前に検温を実施します。体温が37.5℃以上の方は入室をお断りさせていただきます。
- ・接触確認アプリ (COCOA) のインストールにご協力ください。